

PLANET LIFE

<http://caramelplanet.xxxxxxxx.jp/>

PLANET ZERO
INFORMATION PRESS
110812in COMIC MARKET80

mailADD : ai@planetzero.halfmoon.jp

夏コミです！ おめでとうございます！ 今日の新刊はこのジャンルではじめてやってみたwバロ。V6の岡田くんと堤さんがやっていた某ドラマ&映画「SP」です。テレビの時にはさらっと流して観てたんですが、今回素敵な表紙を描いてくださったにんにんさんが革命編の映画を観て「ものすごいセラサク映画」と大ブッシュしてくれました。観ました。そりゃもうすごいセラサク映画でした。セラサクでした。大事なことなので二回言った。革命編のラストシーンがそれはそれはすごかったので、どーしてもあれをセラサクでやりたかったのでした。かなり伏線とがはりまくられる話なのでwebの方で今回の新刊の前章にあたるテレビシリーズ版のWバロも掲載してあります。よろしかったら一緒に観てくださいとともうれしいです。18禁ですみませんが、ご覧になることができる方はどうぞです。→<http://caramelplanet.xxxxxxxx.jp/sp/index.html> んで、通常モードのセラサクをかなり長いこと書いてないのでそれもどうかと思ひまして、ペーパーは日常話を。と、思ったらなんか妙な話になりました。すみません、ホント。今日はお立ち寄りくださいましてありがとうございます！よい夏コミをお過ごしください！

中の人

「よ、待たせたな」

堺が姿を現したのは約束の時間から三十分ばかりたった頃だった。俺は軽く手をあけて気にしてないことをアピールする。

「お疲れさん。今日は結構よかったんじゃないか？」
「心にもないこと言うんじゃないか？後半二十分からの出場でそんなにボールにも触ってねえよ。お前のパフォーマンスのが数倍よかったじゃないか？」

堺はむすすりとしてそう言うと、俺の対面に座る。この居酒屋のオヤジは得意なものでETUの選手と見れば一番奥の部屋を用意してくれるのが常だ。俺の顔でチーム関係者としてインフットされているから話が早い。二人でカウンターに座るには目立ちすぎる。そこを言わずともわかってくれるのはありがたい。地元密着チームはこういうところがいいのだと俺は自負している。

ETUはいいチームだ。

堺は最初から焼酎をオーダーした。飲み方はロック。アスリートらしく実はうわばみなのだが、シーズン中のこの男は決して度のすぎた飲酒は行わない。長いことプロとして生きてきた自覚とフライトは常にピッチを駆ける時間のために何が最善かを考えていることを伺わせる。

俺は堺のこういう愚直なまでのストイックさが気に入っている。

「ところで、なんだ？ 相談って……」

最初のグラスが空いたのを見計らって水を向ければ、堺は視線をはずす。頬が酒のせいとも思えぬ赤みを帯びている。

（ははあ）と俺はカンづいた。たぶんこれはあれだ。テリケートな純情物語だ。

（堺がねえ……）

なかなか感慨深い。とうとう俺に相談しなくてはいけなほど本気のオンナを見つけたのが。

今まで何十人と同じ話につきあってきた俺の経験値は、堺が恋の悩みを相談するために俺を呼び出したことを確信させていた。

「……今、つきあってるヤツがいる」
「いいんじゃないか？ 恋人がいた方が励みになることも多いしな」

家庭を持ってから飛躍するタイプの選手は多い。体調管理については堺は完璧にセルフコントロールできるが、嫁に肩代わりしてもらえならそっちの方がいいに決まっている。

「……いいコなのか？」

「いやヤツだよ。ほかだし、うるせえし、ほかだけ……」

今までの堺の相手とはタイプが違うな、と思いつつも恋人の姿を思い浮かべているらしい堺の表情がひっくり返るくらいに甘いを見て「ああ、めろめろなのか」と納得した。

「結婚すんのか？」

「いや、しない」
即答に俺は笑って「なんだよ、本命じゃないのかよ？」と自分のくい飲みを傾けた。

「……本命だろ？ じゃなきゃ、あんなことさせないしな」

俺は首を傾げる。あんなこととは、なんだろうか。堺はそっち方面は淡泊でそれほどごみいったプレイをベツドでしたがるとも思えない。

俺の無言をどう受け取ったのが、堺はまた顔を

紅くした。どうしたんだ、堺良則ともあろう男が。

「悪いかよ。最初に寝た時にそうだったからずるずるさせてるってわけでもないぞ？ そりゃ、はじめは痛かったけど最近はどうでもないし、俺も楽しんでるから問題はない」

なるほど、今までノーマルだった堺は今やSMプレイを好んでする女王様なカノジョの尻に敷かれているのが。

ますます意外だ。

「今日、相談に乗ってほしいっていうのはもしもこのことがチームにばれた場合、俺がどういう態度をとればいいのかって、そのことなんだが」

「いやー、そういうのはばれたらって気にすることじゃないだろ。個人のシユミの問題だ。みんな最初は面白いがもしれないが一瞬だ。ただ、知らなくていいことなんだから、堺は相手とよく話し合っただけでいい程度に楽しめよ」

堺は納得したようにうなずく。そして「参考までに訊きたい」と尋ねてきた。

「こういうって……一種の職場恋愛だろ？ チーム内のモラルの低下とかそういうのに繋がったりはしないのか？」

意味がわからない。SMシユミと職場恋愛は特に関係ない気がする。チームスタッフの妙齢の女子といえは有望が最初に思い浮かぶが、あれとこれがそんな……ありえない。

一応確認することにした。日本語は大事だからだ。

「堺、職場恋愛っていうのは同じ職場の中での恋愛だぞ？」
「知ってる」

「言ってみれば、チームメイトと恋人同士になったってことだぞ？」

「だからそう言ってるだろ？」

俺はじつと堺をみた。

「相手、誰だって？」

堺は一瞬言葉につまる。だが、他ならない俺相手に隠すこともないと思つたのだから、ため息をつくとこちらをみた。

「……世良だ」

その名前を口にすると、一瞬堺の目が柔らかく和む。なるほど、どうも本気で惚れているらしい。

俺は手酌で新たに注ぎ足した日本酒をあおった。のどが灼けるようにしみる。

「そうか……あいつはまだ若い分歯止めが効かなくなることがあるだろう。お前がそこを上手くコントロールしてやれ。みんなに言う必要はないが、バシでも堂々としていよう。かといっちはいちゃつくな。けじめはしっかりつけるんだ。けなされはしないだろうが、全員が全員手放しに喜んでくれるものとは思わないよ？」

俺は淀みなく応える。堺は真剣な顔をして訓示を聞いていた。

「……わがった。やっぱりお前はすごいな」

俺は微笑する。

「経験の違いさ」

これまで一体何十人の悩めるETUの選手の恋の悩みを聞いてきたことだろう。それぞれ状況は異なってもみな、同じ苦しい気持ちは変わらない。

「応援するよ。世良はいいヤツだ。お前は幸せになれる」

「……今日は奢る」

俺は遠慮なくそれにのらせてもらうことにした。

「どうせ個室で二人きりなんだ。その被りもの、とつていいぞ？」

堺の申し出に俺は首を横に振る。

「ほか野郎、中の人などいない。がお約束だろう？」

マスケット界の漬屋などという物騒な通り名はあるが、俺の本当の仕事は選手のケアだと自負している。

堺は「そうだったな、すまん」と笑うと、俺のために大好物のきゅうりをオーダーしてくれた。

さすがベテラン。心得たいい気づかいだ。

もちろん、堺もいいやつだ。

俺は豪快に生きゅうりを齧りながら二人の恋を心から応援することを誓った。

◆◇PLANET ZERO EVENT INFORMATION◇◇ セラサク小説、大体大人向け。

8/21 SCC関西17 3号館 W10b (新刊はよろめき合同誌です)

詳細 <http://spica20920.web.fc2.com/yoromeki.html>

10/2 浅草トライアンプ 3 10/23 コミックシティスパーク 12/30 冬コミ